

# 土砂の流下を食い止めたい 赤木 正雄

立山砂防工事事務所の初代所長 「白岩砂防えん堤」を建設 「日本砂防の父」と呼ばれる



1887 (明治20) 年3月24日—1972 (昭和47) 年9月24日

## 生家の軒先に避難用の船

兵庫県城崎郡中筋村 (現豊岡市) の裕福な農家で6人兄弟の末っ子に生まれました。中筋村は暴れ川として知られる円山川の近くであり、何度も水害に遭っていました。家々は2mもかさ上げして建てられ、軒先には避難に使う舟がつるしてありました。村の有力者である父は、円山川沿いの開墾と堤防を守る責任者でした。



正雄の生家 ((社) 全国治水砂防協会提供)

## 新渡戸校長の訓示で治水を志す



第一高校に入学したころの正雄 (前列左) と家族 ((社) 全国治水砂防協会提供)

1910 (明治43) 年8月、関東地方は大雨に襲われ、東京周辺が大洪水に見舞われました。県立豊岡中学校 (現県立豊岡高校) から第一高校 (現東京大学) へ進んでいた正雄はその日、東海道線で東京に戻る途中、御殿場駅で列車が止まってしまい、1日遅れて東京に到着しました。

当時の始業式は9月に行われ、新渡戸稲造校長は訓示の中で大洪水にふれ、「治水という仕事は地味な仕事であるが、人生は表に立つばかりが最善でない。諸君のうちで一人でも一生を治水に捧げ、水害をなくすことに志を立てる者がいないか」と話しました。これを聞いた正雄は、故郷の水害と上京のときの事故を思い、治水に生涯をかける決意をしたのです。

## オーストリアへ自費留学

正雄は東京帝国大学農学部 (現東京大学) 林学科で、植林による砂防について勉強しました。卒業して、国内の政治を担当する内務省の土木局に入りました。

土木局では土木科出身者が多く、林学科を出て就職したのは正雄が初めてでした。土木局がこれからの治水事業は、水源地で土石流の発生を防ぐ砂防工事が必要になってくると考えていたからです。

正雄は滋賀県などの任地で山に

木を植えたり、土砂を食い止める砂防えん堤を造ったりしました。できたばかりの施設が激しい土石流に壊されてしまうこともありました。日本の砂防技術の遅れを感じた正雄は、砂防事業が世界でも進んでいたオーストリアへ自分のお金で留学し、2年間当時の最新技術を学びました。

正雄は「木を植えるだけでは土石流は止められない」という思いで帰って来たのでした。



ウィーンに留学したころの正雄 ((社) 全国治水砂防協会提供)

\*立山カルデラ カルデラとは、火山活動によってできたくぼ地のことです。スペイン語で「釜」「鍋」を意味します。立山カルデラの広さは東西およそ6.5km、南北およそ4.5kmです。

## カルデラ出口に巨大砂防えん堤を

急流で有名な常願寺川の上流には巨大なくぼ地「立山カルデラ\*」があります。1858 (安政5) 年の飛越地震ではカルデラの斜面が崩れて大量の土石流が発生して死者140人、けが人約9000人の被害をもたらしました。

富山県は明治の後期から砂防工事を始めましたが、繰り返される洪水で砂防えん堤が壊されたので、国が工事に乗り出すことになりました。その責任者に選ばれたのが正雄でした。

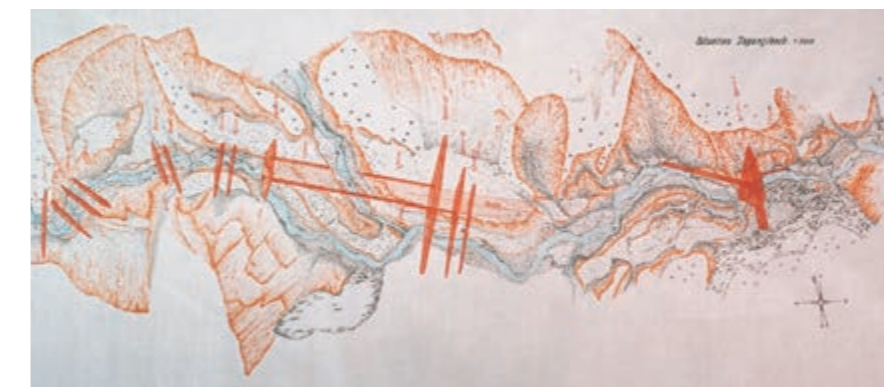
正雄は1926 (大正15) 年に立山砂防工事事務所の初代所長になり、カルデラの出口に大きな砂防えん堤 (ダム) を造ってカルデラから土砂が流れ出るのを防ぐ計画を立てました。たくさんの予算がかかる大変な事業です。1927 (昭和2) 年、材料などを運ぶための軌道工事が開始されました。1929 (昭和4) 年にはえん堤本体の工事が始まり、高さ63mと日本一の白岩砂防えん堤が1939 (昭和14) 年に

完成しました。正雄は完成のめどが立った1930 (昭和5) 年に立山砂防工事事務所を去りましたが、白岩砂防えん堤は完成後も補強工事が重ねられました。

立山の砂防事業は「世界最大の砂防事業」といわれ、正雄は「日本砂防の父」と呼ばれるようになりました。



白岩砂防えん堤 (国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所提供)



正雄が作った常願寺川砂防全体計画平面図 ((社) 全国治水砂防協会提供)

## 夢や志をかなえたポイント

- 地味な仕事にもやりがいを見つける
- 最先端の技術を研究する
- たくさんの労力がかかっても最善の策をとる

豆知識 正雄が建設を指揮した「白岩砂防えん堤」は2009 (平成21) 年4月、国の重要文化財に認定されました。砂防施設では全国で初めての重要文化財です。

- 1887 (明治20) ..... 0歳  
兵庫県城崎郡中筋村に生まれる
- 1908 (明治41) ..... 21歳  
兵庫県立豊岡中学校を卒業
- 1914 (大正3) ..... 27歳  
東京帝国大学を卒業し内務省へ入省
- 1923 (大正12) ..... 36歳  
オーストリアへ留学
- 1926 (大正15) ..... 39歳  
立山砂防工事事務所の初代所長になる
- 1930 (昭和5) ..... 43歳  
立山砂防工事事務所を辞める
- 1939 (昭和14) ..... 52歳  
白岩砂防えん堤が完成
- 1942 (昭和17) ..... 55歳  
貴族院議員に当選
- 1947 (昭和22) ..... 60歳  
参議院議員に当選
- 1972 (昭和47) ..... 85歳  
亡くなる

## コラム 自分の荷物は自分で

正雄は、山を歩く者は自分の荷物を自分で持たねばならないという考えで、部下がついて来ても絶対に荷物を持たせませんでした。

自分の荷物を入れたリュックサックを背負い、長袖シャツにニッカーボッカーズ (長さが膝下までの短ズボン)、登山靴をはいた正雄の姿は正雄独特のスタイルとして関係者の間では有名でした。



1961 (昭和36) 年、立山砂防を視察に訪れた正雄 (国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所提供)